

「第10回雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊ソフト対策検討委員会」

議事要旨

開催日：令和2年2月6日（水）

13：00～15：00

場 所：雲仙岳災害記念館 セミナー室

1. 出席者（委員）

○学識委員

下川委員長、清水委員、木村委員、高橋委員、蔣委員、中谷委員

○行政委員

重野委員、藤井委員、荒木委員（代理：近藤危機管理課長）、岩見委員（代理：鈴木砂防課長）、小村委員、古川委員、松本委員、金澤委員

（敬称略）

2. 議事要旨

(1) 第11ロープ（溶岩ドーム）の挙動の観測成果

観測成果に関連して下記の意見等が出された。

【委員からの意見】

- 今回のLPデータ詳細解析（以下、「LP解析」）では溶岩ドームの移動傾向について非常に重要な知見を得ることができた。
- 地震時に発生する現象として直下型地震との関係について知りたい。
→溶岩ドームの内部構造が分からないため、直下型地震との関係について判断することはできない。LP解析により変位ベクトルが急に变化している箇所では亀裂等ができてくる可能性があるので注視する必要がある。
- LP解析で、P9を境に動きが大きく変わっている。これにより、不等沈下が発生していると推察され、崩壊の発生原因となる可能性がある。
- 傾斜計で数か月単位の周期変動が見られることについて、長期降雨に対応した地下水の量や熱との関係も考えられるので、因果関係など議論していくことも必要と思われる。
- 噴火前の旧地盤面との境界付近などの極めて浅い場所で近年低周波の地震が観測されている。温度との関係は不明であるが、滑りによる微振動の可能性はある。
- 全体を把握するうえで重要な計測データが揃ってきたため、これらのデータを用いて数値シミュレーションを行うことにより、崩壊発生の範囲・規模の推定精度を向上させることができると思われる。
- これまで蓄積されたデータについて期間を分けて解析を実施することで、よ

り詳細な傾向が分かるのではないか。

(2) 監視基準等の見直し検討

監視基準値の見直しは実施しないことでも了承された。関連して下記の意見が出された。

【委員からの意見】

- 南海トラフ地震発生時の島原半島における推定震度の値も追記した方が良い。

(3) 監視カメラの統合について

監視カメラの統合については、現在の監視・観測精度を確保したうえでの統合であれば問題ないとのことでも了承された。

(4) ソフト対策会議等からの報告

ソフト対策会議等からの報告に関連して下記の意見が出された。

【委員からの意見】

- 「雲仙大規模土砂災害合同防災訓練」では先進的な取り組みがなされている。内閣府等が進める地区防災計画に盛り込むなどして、県内の他地区の見本としてほしい。避難の際に物流や災害対策の鍵を握る島原深江道路を活用できないか。災害時にこの道路がどうなるかを検証していただきたい。

(5) その他

雲仙岳火山防災協議会で検討されている、本委員会の同協議会への移行について説明があり、下記の意見が出された。

- 現在実施しているような監視観測・データ分析・シミュレーション等を地元自治体で行うのは困難であり、これまでの観測体制を確保されることを前提として、関係機関や住民で協力しながらソフト対策を進めていく必要がある。
- 溶岩ドームの状態についてコンパクトにスピーディに検討し、住民やマスコミに情報を伝えられる体制を構築するよう、協議会にて議論していただきたい。また、これからも本委員会の委員からのご支援・ご指導をいただきたい。
- 主体性を持って動ける組織が必要。
- 委員会の移行については入念な検討を経て最善の結論を出して頂きたい。

以上